

北朝鮮有事で農水予算査定は厳しくなる

前号でも紹介したが、子実トウモロコシが農水省の政策テーマとして取り上げられるようになり、平成30年度の予算要求にも子実トウモロコシの増産に向けた内容が盛り込まれた。低コスト栽培技術等の普及推進、機械施設への導入支援補助を含めた生産・利体制構築などである。

しかし、予算要求を担当する関係者の話では、財務省の対応は例年になく厳しいという。子実トウモロコシの生産拡大は将来のコメ生産調整関連の予算を減らすことにもつながるわけだから、飼料米関連予算を減らしても子実トウモロコシ関連の予算を増やすべきと主張するのが妥当と僕は担当官に話した。もともと、

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。

現在の政治状況を考えれば、僕の意見はいわゆる政治的リアリズムが無いというところで農水省としてはとてもできる話ではないのだろう。さらに、今回の予算要求は農水省畜産部の「国産飼料増産対策のうち国産濃厚飼料生産利得」というテーマであり、国産飼料の増産が目的のものである。我々が主張してきたのは、今後想定される水田農地の大量な供給に

する水田農家の経営リスクの小さい転作作物としての子実トウモロコシ生産であり、とりわけNoniGMトウモロコシを作ろうというものだ。そして、その需要先として飼料仕向けだけでなく、食品分野が期待できることを主張してきた。我が国では1200万〜1600万tのトウモロコシを輸入しているが、そのうち約150万tはNoniGMトウモロコシなのである。そのマーケットこそ我々が狙うものである。また、遺伝子組み換えに反発する消費者とは「国産」というキーワードにも親和性があると考えるからだ。それなら、畜産物だけでなく、菓子をはじめとするさまざまな食品や飲料分野でも大きな需要が期待できる。現実には、北海道の柳原孝二氏の生産グループでは、ポッカサッポロフード&ビバレッジが商品化したトウモロコシ茶に原料を供給しており、今年から全国販売が始まった。これ以外にもシリアルや菓子類にも供給している。こうした商品化が進むことでこそさらなる需要を拡大させるのである。その意味で、飼料仕向けに限らぬ子実トウモロコシ生産の可能性の大きさを農水省はよく理解して

ほしい。ところで、冒頭の「財務省の対応は例年になく厳しい」という言葉を我々は注意深く聞き取る必要がある。これは筆者のまったくの推量であるが、財務省の対応が厳しい背景には北朝鮮有事に備えての財源確保があるのではなからうか。中国やロシアなどの国の言うことも聞かない金正恩北朝鮮体制の存在。その核開発に対して強硬な対応も辞さないという米国トランプ政権。そして、現在の安倍政権に限らず、我が国が日米同盟の中で米国の意向に反する安全保障政策を取るとは考えにくい。防衛省は来年度予算で初めて5兆円を超す概算要求を出しているが、今後の米朝関係いかなではさらに大きな安全保障上の出費が必要になるかもしれない。財務省はそうした緊急的事態の中でそれ以外の予算を厳しく査定するようになることは十分に考えられる。これまで政治的に特別な配慮がされてきた農林水産予算こそ一番に組上に載せられるのではなからうか。そういう意味でも、飼料米政策をはじめとする農水予算に対してはさらに厳しい目が向けられることになるであらう。であるとしたら我々はもう振る舞うべきなのを考えていただきたい。